



ヤガタアリゲモ

8月1日、22森にて
2014年に発見され
たばかりの、外見がア
リに似たクモの一種。
普通のアリゲモと異
なり、少し派手目な色
彩をしているため、「ど
こがアリのなの？」と思
われる方も多いです。
う。しかし、実は単な

るアリに擬態している
のではなく、毒針を持
つが翅を持たない「ア
リバチ」という蜂に擬
態しているのです。世
の中には似た人が3人
はいると言いますが、
虫の世界も似たような
ものです。（石川）



ヒカゲチヨウ

6月21日、入間樹林
で見られたヒカゲ
チヨウ。後翅（うし
ろのはね）にジャノ
メのような目玉模様
があり、フクロウや
ヘビの目に似せたとい
言われる。日陰にい
ることが多いのは模
様を目立たせるため

とも言われ、後ろか
らつつかれて逃げの
びることもあるらし
い。
常緑樹が多い入間
樹林が、やや暗い証
拠か。（A&K）



サビキコリ

8月1日、22森にて
錆び付いたような色
で体表もざらつてい
るため、樹木の皮に
いると見分けがつか
せん。コメツキムシ
の間ですが、いじめ
ると死んだまね（擬
死）をし、お尻から臭
い突起を出します。
（石川）



ショウリョウバッタ

7月25日、多摩川
の河原を歩くと足元
から次々に飛び立つ
バッタ。ここで一番
よく見られるのがこの
ショウリョウバッタ
だろうか。スラッとし
た体形で周囲の葉の色
に合わせた緑色の個

体が多いので、イネ科
の葉っぱにとまってい
ると気がつかない。こ
れは茶色の個体。何も
ないと思っていた所か
ら飛び立つので、驚く
のは人間の方。（鍛冶



ヨツスジトラカミキリ

4本の虎縞（とらしま）が種名の
由来。でも、このカミ
キリムシ、虎になりた
かったのではなく、ハ
チに似せて自分を守
っているようです。こ
の種はほっそりしてい
る。アシナガバチの
擬態でしょうか。
写真は7月12日、若

葉町3丁目第3緑地
で撮影。雨が続き7月
上旬から一転、カンカ
ン照りとなった日で、
近くにはスズメバチも
飛んでいました。
ヨツスジトラカミキ
リは、東京周辺の平地
で昔から普通に見られ
るということです。私

は初めて。教えてくだ
さったのは、「若葉緑地
の会」のメンバーで、
とくに蝶にお詳しい久
保快哉さん。種の同定
は久保さんを通じて木
村欣二さんをお願いし
ました。（大村）
↓下は22森にいた
トラフカミキリ



ナガサキアゲハ（幼虫）

8月1日、22森にて
黒くて大きいアゲ
ハチヨウですが、な
んとこの幼虫は、鳥
の糞に擬態していま
す。緑色に白い筋が
特徴。名前はシーボ
ルトが長崎で初めて
捕まえたことに由来
します。（石川）



ツバメシジミ

8月1日、22森にて
後翅の先に、尾状
突起があるのが名前
の由来。目のような
模様と共に突起を触
覚に見せかけて、ヒ
カゲチヨウと同じく後
ろから襲われ逃げる
作戦らしい。（I&K）

夏の雑木林は虫捕り天国

愉快的仲間を探してみよう！

夏休みはカフトムシを始め
様々な昆虫が姿を現し、
子どもたちや昆虫好きの大
人にとっても楽しい季節。
市内の雑木林では昆虫観察
会が開かれ、保全林でも作
業中に様々な昆虫が目につ
きます。

中でも楽しいのは別の生
き物や、木の枝などの格好
をまねて、自分は別のもの
であると周りに思わせる「擬
態」をしている虫。たとえ
ば・・・

① 自分は無毒だが、有毒
のものに見せかけて、敵に
食べられないようにする。
② 木の枝など、自然なも
のに見せかけることで、敵
に気づかれないようにする。
いずれも捕食されずに生き
残るための知恵。

以前、トラフカミキリが
飛んできたときは「あ、ハ
チだね」「スズメバチ？」
などと言われ地面に降りた
ところを踏みつぶされてし
まいました。擬態が裏目に
出ることもあるんですね。



花の履歴書 33

戸部英貞 (絵・文)

チガヤ (茅萱)

イネ科

=チ、チバナ、ツバナ



Imperata cylindrica

河川の土手や日当たりの良い法面に多く見られるチガヤは、北海道から琉球諸島、さらにはアジア大陸中西部、アフリカ、オーストラリアまでの広い範囲に自生するほか北米にも帰化しており、「世界最強の雑草」とされている。

『萬葉集』にも数首が詠まれており、大伴家持の贈答歌に「つばな」を食べて痩せる歌があるが、効果はどうだったのか? 「つばな」はチガヤの古名で、語源について、いろいろの説があり、群生する様からチガヤ(千茅)、赤い穂や葉の先が赤くなることから血茅、朝鮮語では「ち」と呼ばれ、チバナからツバナになった説などがある。

この植物はサトウキビと近縁で、糖分が含まれ、初夏の頃、外に出る前の穂を口にとると甘味があり、子供の頃、ツバナと呼んで多摩川土手で口にした記憶がある。

チガヤは古くから活用され、葉を乾燥させて屋根を葺いたり、縄を編んで梱包に使われたほか、成

熟した穂は火口(ほくち)にも使われてきた。

このような利用法は現在ではすべて別のものに代わってしまったが、子供の頃、盆が近くなると父親が多摩川土手のチガヤを刈り、乾燥させてしめ縄を編み、祭壇の四隅に青竹を立て、竹の上部に編んだしめ縄を張りホウズキや素麺を下げていた。

なぜチガヤでしめ縄を作るのか理由はわからないが、それでも、その習慣だけは受け継がれている。最近では盆前の頃に土手のチガヤは刈られてしまい、縄を編むには短すぎ、ホームセンターなどで縄を求めるようになってしまった。

ササの葉でくるんだチマキ(粽)も本来はチガヤで巻いた「茅巻き」だったが現在では名前だけになり、チガヤの出番の場所がなくなり、チガヤの葉が赤くなる性質が強いものは盆栽などの下草として使われている。

チガヤのこと

きれいに刈られた多摩川土手

「小さい頃はこれの穂が顔を出すと、ガムのかわりに噛んでたわ。」という年配の方は多いが、甘い物が豊富な近頃の子どもはそんな経験は無いだろうか。

多摩川土手も帰化植物であるセイバンモロコシが幅を利かせるようになったし、常に刈取られるために綿毛を見る機会も少ない。

六月二十五日 布多天神境内で行われた「夏越大祓式・茅の輪神事」(なごしのおおはらえしき・ちのわしんじ)

半年間の罪穢れを祓い無病息災を祈るため、チガヤを束ねた大きな輪を神前に立てて、左、右、左と八の字状にくぐって廻る。

近年は多摩川土手の手入へ

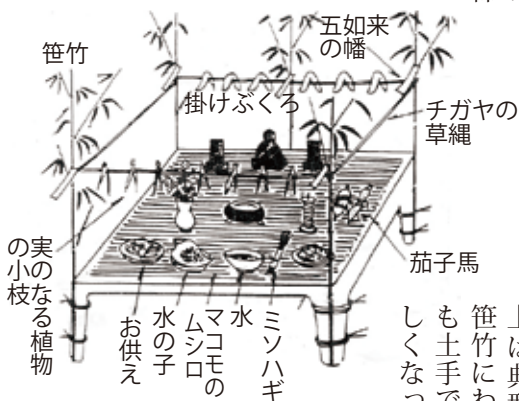


れ(刈込)が行き届き、調布地域では充分なチガヤを手に入れることができず、府中方面へ刈りに行っていたそうだが、今年はどうとう神社の裏で育てたこのこと。

写真左がチガヤを刈り取ったあとと小さな萱場。



萱場 (かやば)



上は典型的な盆棚飾り。笹竹にわたす縄のチガヤも土手で調達するのが難しくなってきた。マコモはワンドのあたりに群生している。

神代植物公園近くの22森にもチガヤが繁茂するため、「盆飾り」と地元農家の方が刈りにくることも。(鍛冶)

ちょうふの崖線樹林を守る

入間・樹林の会

6月21日(土) 曇り時々雨 参加者10名

雑木林広場の下草刈り作業を行った。通路を挟み上下に分かれて作業し民家近くの敷化したサネカズラを伐採し見通しがよくなった。落ち葉がずいぶんたまっているので落ち葉かきをしてもいいのではないかとの意見もでた。23.6度74.1%と湿度が高いのでこまめな水分補給が必要だった。作業終了後力マ研ぎを行ったが1本は使用できないほど刃がかけていたので定期的な手入れが必要である。

ホウチャクソウ、ヤブミョウガ、ドクダミ、ツクサ、マンリョウ、アジサイ、ヨウシュヤマゴボウ、タケニグサなど白い花が目立った。

7月19日(日) 晴れ

37.8度63.5%。梅雨明け宣言が出され猛暑日だった。マテバシイ広場でスズメバチが出てきたので作業を中止し、今後は冬に作業をすることとした。7月に続き、雑木林広場の下草刈りを行った。擬木柵までサネカズラ他伐採できたので見通しがよくなりすっきりした。緑と公園課職員と共に作業したので伐採木の確認ができた。

生きた雄カブトムシと初めて遭遇、その他二ホンカナヘビ・ジムグリ・クロアゲハ・スジグロシロチョウ・ミンミンゼミなど生物を多く観察できた。花はヤブミョウガ・マンリョウ・クサギ・ミズヒキアジサイ。(安部)



下草刈風景

カニ山の会

6月13日(土) 晴れ 参加者9名

セブンイレブンの助成金で購入した高枝鉋を使用し、キャンプ場北の植栽地上部に張り出している枝を剪定した。

その西側にホタルブクロが集団で咲いていたが、背が低く、通路となっている箇所だったため、踏まれないように細い枝等で囲いを行った。



囲いの中にホタルブクロの花が

7月11日(土) 晴れ 参加者8名

当日はリーダーの小島さん始め数名がボランティア講座のスタッフだったので、午前中は残った者たちで東樹林上段のササ刈とツゲなどの枝の剪定。刈ったササを野草園前の捨て場に運ぶ折、頭のつぶれたヘビが(カラスにやられたか)ヤブに逃げ込むところに遭遇。

キャンプ場で弁当を食べた後、受講生の実習であるササ刈りや丸太切りの補助を行った。受講生の人数が多かった(14名)ため、苗圃まわりの雑草はあつというまにきれいになり、全員で刈った草の片づけ。

最後の振り返りのときに、カニ山の会提案の11月8日(日)開催予定の「国分寺崖線ウォーク」について話し合った。(鍛治)



大勢の受講生であつという草刈!

若葉の森3・1会

梅雨が明け八月の若葉の森は蝉しぐれ

6月7日(日) 晴れ 参加者7名

梅雨入り前日だが気持ちのよい陽気。前半は第1緑地で、3月の伐採で出てきた枝木を用いてコンポスト柵を補修(杭も製作)。六別坂や緑地内通路・階段の落葉かき。ヤマザクラのヤゴ(ヒコバエ)を剪定。

後半は第2緑地で3月に伐採した枝木の整理、通路を覆うアズマネザサ刈り。



杭打ち



コンポスト柵補修



ヤマザクラヤゴ切り落とし後



ササ刈り

落ち葉かき(清掃)

梅雨時のキノコ



7月5日(日) は雨天中止

◆今年も森の保全備品を市に申請(携帯防虫器、保護柵用杭・ロープ)(NOK)

調布地域協議会
協力身近な川を見守る会

7月18日例年行っている深大寺自然広場の「調布の生き物調査」PR不足の面もあるのか、3組の親子が参加。講師の宮治氏から「この場所の特徴やうすを知ることが大切」というお話を伺ってから自由に虫とり開始。網を持った小さな子たちには、やはり蝶とトンボが一番目につくので早速追いかけてます。スピードのあるトンボをつかまえるのは難しいがツマグロヒョウモン(蝶)やモンシロチョウをつかまえることができた。そのほか立派なおすのカブトムシやアオドウガネというコガネムシの仲間。そしてキボシカミキリ。斜面の林の中では大きなカタツムリを発見。

最後に宮治先生に名前の確認をしてもらい、ジューズをいただいで解散。

(レポート 環境市民会議 NOK)



ミズジマイマイ

こちらに向かって飛び立つキボシカミキリ



ちょうふの自然 みつけた！

メーリングリストより

◆7月11日 2つのビックリ！
深大寺自然広場のほじで悲鳴！頭のつぶれたヘビ（アオダイショウか？）がいたのです。どう見ても「死んでるでしょ」というくらい中身が見えていたのですが、そのまますると茂みの中へ入っていつて更にびっくり！カラスかなにかにつつかれたのでしょうか。

もうひとつは高いところをブーンという感じで飛んでいた虫。コガネムシかタマムシ？と思ったらそのあと地上近くに飛んできたので仲間の一人がパシッとたたくと気絶して落ちたのです。これは見事なヤマトタマムシでした。

その後もまた樹の上を飛んでいるタマムシを見ることが出来ました。ひさしぶりの上天気でルンルン！飛びまわっていたのでしよう。（NK）

◆7月25日 朝顔の緑のカーテン。ゴーヤも花を付けはじめました。

戦争や原発でこの平穏が壊されないように。（MS）



壊れた巣から幼虫が！



◆7月23日 玄関わきのユズの木にトックリバチが巣を作っているのを発見。

テニスボール大の土の塊にトックリの首が付いたような形。中を割ったら、生きた蛾の幼虫が5、6匹出てきました。これハチの幼虫のエサなんです。本では読んだことあるけど実際見たのは初めてでした。新鮮でも暴れて幼虫にケガをさせないように「生かさず殺さず」の状態に保存するなんてスゴイですよ。ね。

かのアール先生もタマムシをエサにするツチスガリについて長々と書いていますが、うーん、やっぱり自然は偉大なあと感心してしまいました。（SN）

自由研究は楽し

中原彰子

我家のカボス（もしかしたらスダチ）に毎年アゲハチョウが産卵します。けれどもこの木にはこわいカマキリとクモが常駐していて、卵は孵化するものほとんど食べられてしまい、大きく育つものはいません。そこで「今年はいっちょ育ててみるか」と一念発起、幼虫や卵ごと枝を伐ってきてトイレで飼育することにしました。（トイレにしたのは猫の魔の手から守るためです）

幼虫で来た子はクロアゲハ、卵で来た子はナミアゲハの様で、朝な夕なトイレに行くたび、いえいえ、用もないのにトイレに行つては「元気にムシヤムシヤ食つてゐるな♡」「おつ、脱皮したゾ。」と日々観察三昧。これつてまるで小学生の自由研究みたいですね。宿題として提出することはありませんが、毎日目に見えて大きくなっていく姿に胸をときめかせながら、昔少女は今日も灼熱のトイレで観察を続けています。



いつのまにかトイレの隅に蛹が



クロアゲハの真つ赤な臭角



上がナミアゲハ下がクロアゲハの2頭揃い踏み



1 cm位の幼虫は鳥糞みたい

ちよつふ国分寺崖線ウオーク（仮称）

11月8日（日） 古多摩川の流れて削られた国分寺崖線は今でも貴重な緑の連なりとして残っています。その緑の連なりにそって歩いてみませんか。チェックポイントになる雑木林は市民グループが保全活動を行っている場所です。完歩した方には地場野菜のプレゼントも。

（10月の市報に掲載予定）

問合せ：ちよつふ環境市民会議



環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

●8/16（日）9:30～12:30
●9/27（日）9:30～12:30
＊8月は方形枠調査を予定。
＊9月の活動は第4日曜に変更になりました。



カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

●8/8（土）10:00～12:00
●9/12（土）10:00～15:00
原則として奇数月は弁当持参で午後まで作業を行います。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●8/9（日）9:30～12:00
●9/13（日）9:30～12:00
＊8/23（日）16:00～そうめん流しをします。お楽しみに。

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●9/6（日）9:30～12:00
●8月の活動はお休みです

先の4団体の保全活動は「調布市との協働」で行っています。
問：緑と公園課 042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部（市役所 8F）、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋（布田）、ニワコヤ（仙川）、ウェアハウスガーデン（柴崎）など。置き場所＆応援カンパ募集中です！

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載しています◆